

2013年の米国大学からの博士号取得者、
半数近くは女性でマイノリティ学生の割合が増加（4月29日）

米国科学財団（National Science Foundation : NSF）傘下の米国科学工学統計センター（National Center for Science and Engineering Statistics : NCSES）は、2013年に米国大学から博士号を付与された学生に関する報告書「米国大学からの博士号取得者 ～2013年～（Doctorate Recipients from U.S. Universities : 2013）」を発表した。本報告書は、同年の博士号取得者に関するデータを、国籍、性別、人種・民族、及び専攻分野別にまとめ、①米国で博士号を取得しているのは誰か、②学生にとって魅力的な分野は何か、③どのような影響により博士号取得につながったのか、④卒業後の傾向はどのようなものであるか、⑤大学が学生を引き付ける要素は何か、⑥要した費用と就職結果にはどのような違いがあるか、という6つの問題を取り上げている。主要な結果は以下の通り。

- 2013年の博士号取得者全体の46%は女性で、2002年以降、博士号を取得した米国人及び永住権保有者の大半は女性。
- 黒人・アフリカ系米国人の博士号取得者の割合は、1993年の4.5%から2013年には6.4%に増加。また、同時期におけるヒスパニック・ラテン系米国人の博士号取得者の割合は3.4%から6.3%に増加。
- 2003年～2013年に学生ビザを取得して米国大学から博士号を取得した留学生の70%が留学生数上位10カ国の出身で、上位3カ国の中国、インド、韓国からの留学生数は留学生全体の50%以上。
- 科学工学分野専攻者が同年の博士号取得者の74%を占め、2003年の65%から上昇。

なお、本報告書は、<<http://www.nsf.gov/statistics/sed/2013/digest/>>からダウンロード可能。

National Science Foundation, Who earns a doctorate? More women, more foreigners, more minorities

http://www.nsf.gov/news/news_summ.jsp?cntn_id=134980&WT.mc_id=USNSF_51&WT.mc_ev=click